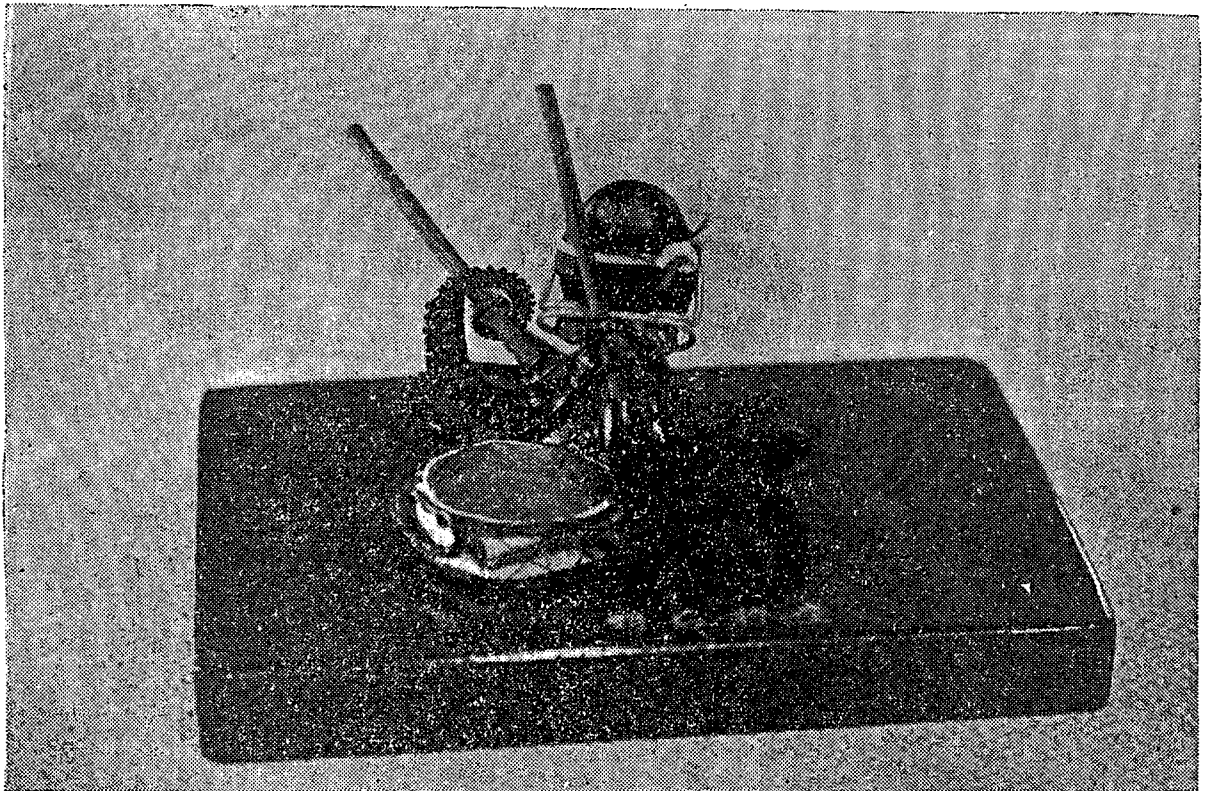


水拓

七月



第二卷

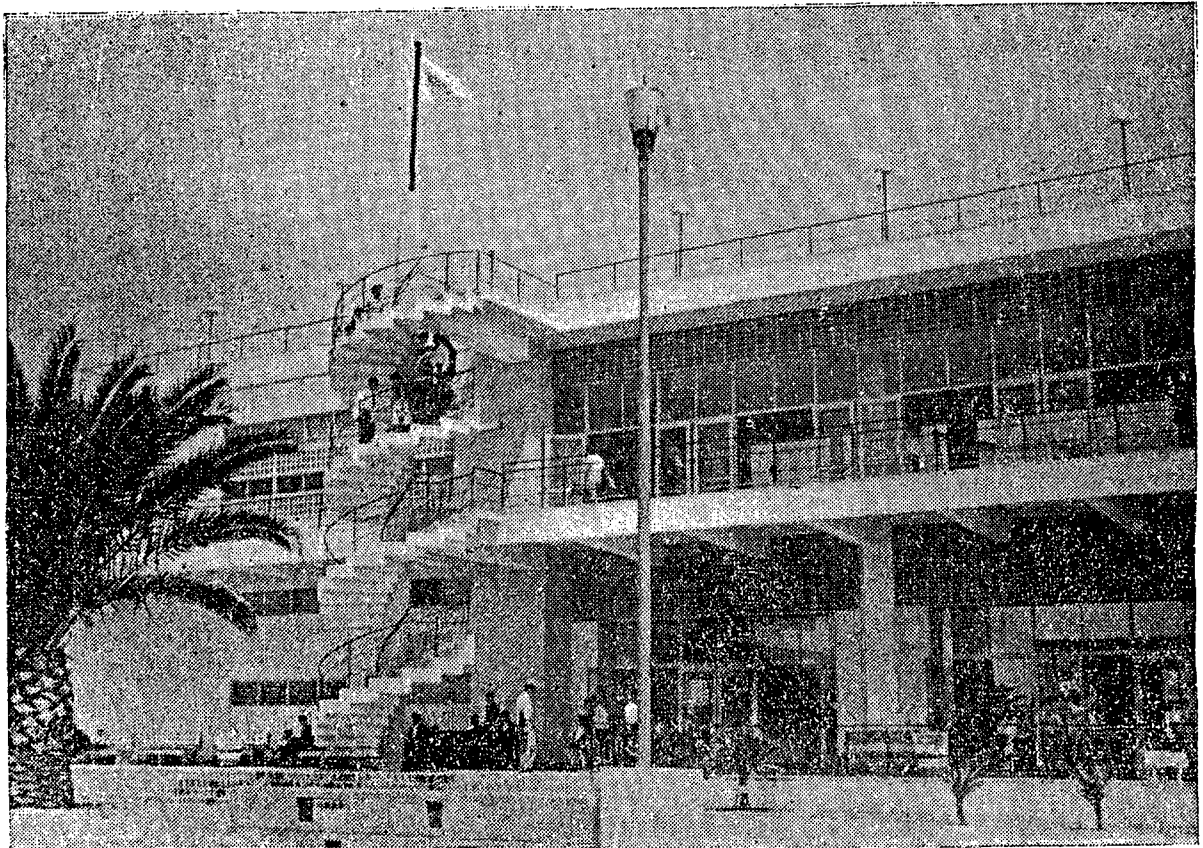
第十一号

昭和三十三年七月十五日発行

(月刊毎月一回十五日発行)

一部十円

兵庫県漁業協同組合連合会



水族館の話

水族館にゆくと、子供達は声をあげて悦びます。大人は声こそ出さないが、みんな目をみはります。どういふわけでしょう。それはいうまでもなく平常見ることのできない魚の生活状態が見られるからです。私達は魚を非常によくたべますので、皿の上に盛つた魚には深いなじみがありますが、泳いでいる様子を知っている人は案外少ないのです。あ、これがタコなの！といつて驚く奥様方も、お家ではタコを随分と召し上がっております。

さて、水族館は、魚類を中心として下等な無脊椎動物から高等な哺乳動物まで飼育しており、お客様は愉快だ！面白い！といつて見物している間に、水族館の知識、特に形態、色彩、行動（遊泳の方法）等がわかり、またその分布とか利用についての知識までもおのすから体得できるようにしてある施設であり、四面海に囲まれ水産物をよく利用している我が国に水族館が発達するのは当然でありますと共に、水族館は楽しくて為になるということを念じて造られるものであります。

世界で最初にできた水族館は、フ

ランスのポルドーのもので、一八三〇年に出来ております。また古いもので現在まで引続いて経営されているものには、一八七四年に開かれたイタリーのナポリにある臨海実験所の附属水族館があり、ついで一八八二年にオランダのアムステルダム動物園内に設けられたものがあります。このほかに有名なものとしては、ペルリン水族館、ロンドン水族館、ニューヨーク水族館、サンフランシスコのスタインハート水族館、シカゴのシエツド水族館等があります。また、米国には海洋水族館といわれる巨大な水族館でプールの側面にガラス窓をはめ込んで観覧できるようにしたものがある。このほかに二三箇所あります。この海洋水族館というのはイルカを飼育して芸を見せ、お客を悦ばせるもので、動物演芸に類するものであります。亜熱帯の青い水にいどんでいるイルカを、観覧席に席つて、心ゆくまで眺めている観衆を御想像下さい。

我が国で最初にできた水族館は、明治三十年に第二回水産博覧会の附属施設として兵庫の和田岬に設けられました。その設計は飯島魁という

人が行つたもので、閉館後の経営には藤田経信という人が当りました。当時の技術として水族館を経営する事は大事業であり、神戸こそ実に我が国に於ける水族館発祥の地であります。その後明治三十二年には東京の浅草に水族館が設立されましたが、降つて神戸市において湊川公園内に昭和五年より神戸市水産会の経営による水族館が設立され、第二次大戦の終戦近くの頃まで市民に親しまれた事は未だ皆様の御記憶に残つている事と存じます。

現在におきましては、北は北海道の網走から南は鹿児島県の西桜島に至るまで合計五十箇所の大小の水族館が経営されており、さすがに海洋国日本としての面目躍如たるものがあります。

神戸が我が国における水族館発祥の地で特筆すべきことは既に述べましたが、去る五月十日を期して新しく出発した神戸市立須磨水族館があります。

源平の昔を忍びながら国鉄須磨駅に立つと、静かな海の彼方に淡路島が見え、ゆらに眼を東に転ずると、水平線に河内、和泉の連山が浮き上つて見えます。白砂青松のなぎさに沿つて一軒半東に歩み続けると、

近代建築の偉容を誇る須磨水族館が松林の外れに屹立しています。玄関の大ホールには青海亀や赤海亀が客を招き、中庭のプールには熱帯植物が茂つて、その葉蔭にはワニの仔がたわむれています。水族館の右半分は水族室となつており、左半分は海洋生物展示室となつています。水族室に一步入ると色彩も鮮やかな魚の群れがまずお客の目をとらえます。右側のスロープに沿つた水槽には淡水魚が飼育してあり、沃野の魚から奥に行くに従つて次第に中流の魚、溪谷の魚へと移つてゆきます。内部にはいつてゆくと、珊瑚礁に棲む魚、砂地に棲む魚、磯ならびに岩礁に棲む魚のほか、エビ、カニ、イソギン

チャク等の下等動物や、海の怪物タコの生態も興味深く観察することができます。なお、ここでは新らしい試みとして、実験水槽というのがあります。魚にはどんな能力があるかという、つまり魚の智慧を一般に見て戴くように計画してあります。

中央の階段に沿つた大プールには巨大な魚がはね、階段を上ると目もまばゆいばかりの熱帯魚を眺めることができます。

左の海洋科学展示室は、世界の海と海の生物、さらにその利用につ

てわかり易く、かつこの室を訪う人の興味をそるるるに、展示に一段と工夫がこらしてあります。なお、この展示室の二階は、海洋科学展示室の延長でありまして、季節的に意匠を凝らすように設計してあります。三階には観客三〇〇人を收容することのできる講堂があり、ワイドスクリーンを備えているほか、集會室、図書室、研究室、眺望台、休憩室、喫茶室等の設備が整つています。また、屋外には目下建設中の大プールがあり、異国情緒豊かなフェニックスが茂つています。そのほか大人でも興味をそるるような大チュエーリツプ園や汽車、ミキサー等もあります。

このように水族館は楽しいものでもありますと共に、これを利用することによつて自然を探究しようとする意欲もおのずから培われるものでもあります。したがつて、水族館は単なる娯楽物として建設されたものではなく、世界の海洋を探究して人類の福祉に貢献しようとする大科学者の輩出を望んで建設されたものであることを附言いたします。

神戸市立須磨水族館長

井上喜平治

目次

村づくり二年目へ

継続十三新規二十七地域……(1)

漁業遍歴・対馬の巻 (1)

小網漁父……(4)

芦力浦だより

坂東勝一……(9)



村づくり二年目へ

継続十三新規二十七地域

特別助成計画成る

戦後農山漁村における人口急増と海外における生産向上によつて、我が国の農漁業は、非常に困難な情勢の中に立たされている。

この客観情勢に即応する施設の一

つとして、政府が昨年度から実施している農山漁村建設総合対策事業は農山漁家の総意と、盛り上がる自主性に基き、経営の合理化と、多角化を総合的に推進しつつ第二年度の実

施設階を迎えた。

昨年は、政府の重要施策の一つとして打出されてから事業施行までの間も短かく、政府並びに県においても充分なる指導がなされなかつた関係もあり、少々計画が粗雑であつた。

本年度は、本事業の趣旨にかんがみ、その成果を一層深く且つ広くするよう、中央地方におけるそれぞれ

の事業運営の在り方、方向などについて慎重に検討を加えんと共に、特別助成事業実施基準についても、対象事業種の整理統合、新規事業の採択、特認事業の活用、各種事業基準の緩和、補助残融資の拡大等適切な改正がなされた。

特別助成事業実施基準で緩和された点を、簡単に水産関係分について説明すると、次のとおりである。

1、補助残融資が共同施設にも適用

されるようになった。即ち、百万円の事業であれば、補助金五〇万円融資四〇万円（補助残額の八割）地元現金一〇万円ということになる。

2、増築・移築・更新等は、一般には原則として自力又は融資によつて行うべき事業である。しかし地域の後進性、地元負担力、振興事業としての重要性及び事業効果等を考慮して特別の事由のある場合には、増築又は更新等は特例的に認めることになつた。

3、共同施設（共同作業所、簡易冷蔵庫、貯氷庫等）の建物については、特に建坪の制限を除外した。

4、共同給油施設は、貯油能力二十屯までになつた。

5、特認事業として鮮魚運搬船、鮮魚運搬車、魚群探知機等この種共同利用施設は大巾に認められるようになった。

本年度の特別助成地域は、昨年度から引続きの一三地域と、本年度新規が二七地域で計四十地域となる。これらの地域は、すでに計画（基本計画・本年度計画・特別助成計画）を樹立し、県段階の審査も完了し、目

事業 (32.7.15現在) 兵庫県

担 区 分		摘 要
町 負 担	事業主体負担	
68,000	273,000	下浜部落に設置する 現在使用中の施設を更新する
234,000	937,000	
113,000	451,000	先達漁船に設置する
—	184,000	漁期により移動したい
—	324,000	防波堤突端に設置 共同出荷体制を確立する準備段階 " " " "
—	269,000	
—	269,000	
—	249,000	
15,000	279,000	巾着、込瀬、底曳、一本釣
10,000	225,000	
—	498,000	イワシ、イカナゴ、一貫加工 附帯、日産150貫の製氷、碎氷
—	190,000	
—	723,000	
—	56,000	
—	50,000	斜路は増設
—	64,000	
—	232,000	
—	135,000	
—	330,000	イワシ、ワカメ、イワノリ加工 ウインチ付両捲、レール上を移動 先達漁船に設置 事業主体は漁協、対象者は部落全員
—	309,000	
—	737,000	
—	138,000	
—	150,000	
440,000	7,072,000	

昭和32年度・農山漁村振興特別助成計画・水産関係

地域別	事業積目	事業主体	事業量	事業費	負
					国庫補助
香住第一	共同充電施設 簡易冷蔵 //	香住漁協組 余部 //	1棟65坪充電機1基	561,000	220,000
			1棟14坪クワ建、冷凍機7.5HP	1,911,000	740,000
香住第二	漁業用通信 //	生産組合	中短波無線機1、魚探2	941,000	377,000
北淡第一	船捲揚 // 給油 // 鮮魚運搬車 // 荷捌所 //	浅野漁協組 育波 // // 室津浦 //	捲揚機2	333,000	149,000
			給油タンク 20kl 1基	589,000	265,000
			オート三輪 1台	490,000	221,000
			1棟16坪、計量器2台	490,000 453,000	221,000 204,000
津名第一	共同作業施設 船捲揚 //	志筑 // 塩田 //	1棟30坪	544,000	250,000
			1カ所、6HP	425,000	190,000
御津	のり共同乾燥 // 簡易加工 // 簡易冷蔵 // のり増殖 //	苅屋 // 岩見 // // //	5カ所、1棟6坪	885,000	387,000
			1棟 15坪	259,000	69,000
			1棟7.66坪、3HP冷凍機	1,285,000	562,000
			1カ所300坪、ヒビ30棚	100,000	44,000
南淡第一	タコ増殖 // // 船捲揚 //	福良 // 沼島 // 南淡 //	合付タコツボ2,000カ投入	87,000	37,000
			" 2,500カ "	110,000	46,000
			斜路、捲揚機1組	408,000	176,000
一宮	給油 //	郡家 //	1基 10kl タンク	265,000	130,000
浜坂	共同加工 // 船捲揚 // 漁業用通信 // 結婚改善 // 漁事放送 //	浜坂 // 三見 // 居組 // // 諸寄 //	1棟 40坪	599,000	269,000
			8HP発動機、レール70m	550,000	241,000
			陸上局1、船2(100m)	1,340,000	603,000
			モーニング2、和服1、女子用3	250,000	112,000
			1カ所 一斉放送	272,000	122,000
計	23 事業	18 組合		13,147,000	5,635,000

下農林大臣と協議中で、承認次第事業に着手することになるから、八月上旬には事業に取つかれると思われる。
水産関係の実施地域並びに、その地域において行われる事業は概ね上の表のとおりである。

水産資源保護啓蒙運動映写会

果水産課並びに県漁連共済による水産資源保護啓蒙運動映写会が左記日程により行われた。
七月十五日 炬口
十六日 佐野
十七日 南淡
十八日 湊町
十九日 都志
二十日 姫路(飾磨)

N H K

(八月)
早起鳥 12日(月)
今年の新しい村作りについて
瀬戸内海事務局 津田 技官
ラジオ公民館 31日(土)
コンクリート漁礁の潜水調査(現録)

ラジオ神戸

農漁村の番組
朝6時25分~40分

【七月】

31日、水、ことしの水産試験場の指導目標 水試 三上場長

【八月】

7日、水、漁船機関―夏の手入 水試 杉本技師
10日、土、水産業と水
14日、水、今年のイワシの漁況と海況 水試 浜田技師
21日、水、漁家の副食―三 水試 助川技師
27日、火、台風シーズンに備えて 水産課 坂口技師
28日、水、コンクリートブロッツ 魚礁の潜水調査の結果 水試 塚 技師

漁業遍歴。対馬の巻 (1)

小 網 漁 父

日本にいては日本の姿はわからぬといわれている。海の魚は海水のかわらぬことを知らない。内海の漁師はその漁場と漁村のありかたに疑問をもたぬし、その境涯に満足している。少くとも日々の不満にたいして、かなしいあきらめをもつて働いている。ひろい外洋から何物かを運じての呼びかけがあつたとしても、それは彼等をたち上らせる駆動力とはならない。

私の場合には少しちがう。ひろい社会の海を遊いできた私の日には漁場の荒廃もさることながら、漁師どうしの、まさつや紛争に明け暮れる煩わしさというものが、がまんのならぬものと、うつつたのである。

淡路の海はせまい

たとえば地曳網に集魚灯を使つたところ、先ずぶつつかつたのは、あぐり網連中からの抗議であつた。

『夜間いわしが集魚灯に付くので

昼間は浮上索餌をせぬようになり、いわしが不漁となつた』こういう文句である。これが事実ならまさに大問題であろう。

『わずか五百ワツトの集魚灯一つで、海じゆうのいわしが全部浮き上るのなら君たちもそれをやつたらどうか。現にいわしがあじをとつていくらいのもので、いわしなど物の一斗もとつたことがないのを君たちも毎日見ているではないか、それは無理難題というものぢやよ』と一矢をむくいたものの。

『それはわかるが、とにかく大勢のことやから、やかましくこまる。今日からやめてくれ』

多数の暴力にひとしい。電気水中灯などといえば魔法くらいに考えている、ちよんまげ頭がいくつかのこつていようという彼等の集団をナツトクさせることは至難のわざである。

せまい砂浜に数多くの網を曳き上

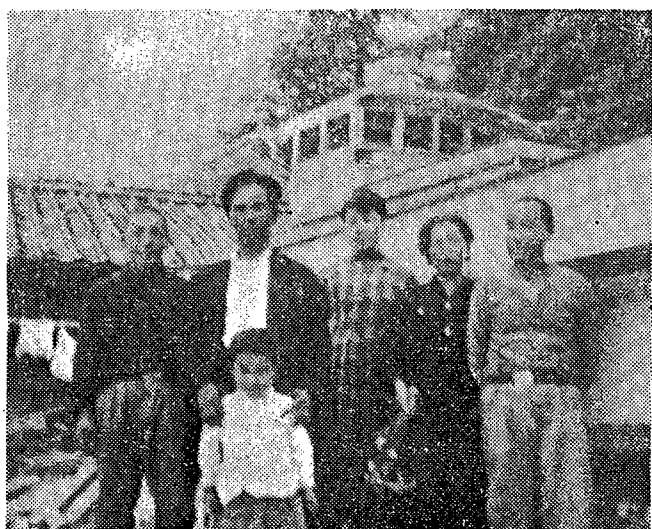
げるため、毎日のごとく、後で先だと、モンチャクをくり返している。浜がうるさいと沖合の手ぐりでもやるうと思つても、違反漁法を強行するのでなければ人なみの漁もできない。村境に近いところへ小さなつぼ網を入れたところ隣村からねじこんできた。

『うちの網に近いからこまる。すぐやめてくれ』これには驚いた。海は戦場と心得ている。人に押されまゝいと身がまえているし、そのためには人を押しまくらねばならぬと信じている。生存競争は漁場に限つたことぢやない、これがあたりまえだところ考えるのが常識である。

呼びさまされた野性

私になまじいに社会のいろいろの階層に活きたために、近隣骨肉相せめぐ醜いありさまに失望したのは大正十三年という古いことである。この頃すでに同胞相刻の様相は濃くなつていたのである。

すべての社会に絶望し帰郷し漁師になろう父の衣鉢をついで網を曳こうと決心したそ



の時未熟であり純粹であつた私は戸惑つた。私が海へと志すようになつた動機から説明せぬと私の言動を諒解してもらふことはできぬだろう。私は少年の頃からの文学思想によつて次第に懐疑的な人間になつて行つた。国木田独歩の諸作からジャック・ロンドン、ピエルロチ更に有島武郎の『生れいづる悩み』などによつて、私のうちにある何万年昔の祖先
.....
筆者が出漁以来始めて自力で建造した一本釣漁船とその家族。
左から二人目は坂東氏とその長男(32歳)対馬小網にて)

の野性の血が、よび醒されて新しい脈をうちはじめた。都会生活や、青白いインテリの生き方に強い反感と軽蔑を感じた私は、M氏やその同志とともに日向の山にも暮してみたがそこにも私の魂の安住の地はなかつた。私は次第に猜介な人間ぎらいの性格になつて行つた。野に還ろう、海へ行こうこう考えた中にも人間と交渉のない魚相手の漁師が一番よいという結論になつていつた。その海もおだやかな内海では面白くない、まして衰れた貧漁（自分もそうであるとしても）を押しまくつたり蹴おとしたりせねば立ちゆかぬという淡路の漁場など眼をくれる気にもならない。そこで漁師一年生としては向う見ずな朝鮮出漁という計画を立てて父をおどろかせた。

あらゆる方法で私の子供つばい夢のようなたくらみを思いとどまらせうとつとめたが

『内海の漁場は枯渴にひんしている、前途は暗い』と口ぐせのようにいつていた父としては、その主張の手まえからも最後まで私の無鉄砲を押えることはできなかつた。鬼胎のなやみというようなものをその時の父は感じたにちがいない。当時の私

にとつては危険や困難などは、むしろ求めるところであつた。

『独歩は驚きたいといつていたが私は苦しみたい』などと放言していた気になつていたものだ。骨にしむ厳寒と、空うつ大波、これらがたまらぬ魅惑でさえあつた。

それまであらゆる環境にあきたらず弊履のように捨ててきた叛逆児の私がこのとき、どうしてこの腐臭をはなつ溜り水のような漁村に安心立命を得られよう。

故郷へかえる

それから風雪の二十年、終戦後の漁場も漁村も、すさみ果てた淡路の故郷に帰つてきた私は、さしすめ生きているための方便として彼等の仲間入りをして押しつ押しされつの生活をしていたが、せめて和歌山県の外海へでも出たら多少漁場のゆとりもあるうかと考えたのは、窮余の一策にすぎなかつた。

事志とたがい、さば延縄、定置網いすれも不成功に終り四方月間にやりくり算段の二十万余りを使つた上水揚高一銭もなしという散々の結果であつた。八人家族で五人が学校へ通うという大世帯であるから仕送りもできなかつたこの期間の家計の苦

しさというものは一通りのものではなかつた筈だ。事業の失敗にうちのめされて帰つてきた私には子供らが皆やせていることが、先ず眼についた。これには私も思わすうなだれた。如何なる世間の迫害や嘲笑よりもこれが一番こたえた。無謀な出漁計画の犠牲を目の前につきつけられた気がして暗然として瞑目した。どうして自分はこうも苦をもとめてあがきまはらねばならぬのか、自分自身をもてあます気もちになつた。その次ぎには

『大きなことをいつて出かけたが出漁にはこりたろう』

周囲の冷たい他人の眼ばかりでなく、身内の人々の視線にさえもこうしたことが語られていようように、ひがんだいじけた気もちに陥ろうとする自分を見た。

『私は懲で動いたのではないのだ。ポロもうけをたくらんで出かけたのではないんだ』私はいかたかたではないんだ』私はいかたかたかた。けれども物慾以外に或は体裁よくいつて利潤追及を措いて事業をもくろむ動機があろうとも思わぬ人々にたいして、こう弁解したところ、どうして私の心境を伝えることができない。又もし理解できたと

しても更に強い軽侮の念でこの夢家をわらうことだらう。

対馬へのイバラの道

『この痛手の回復にかなりの年月を要するだらう、けれどもその間ぐらひは、この天ノ邪鬼もおとなしく家で地曳網でも曳いてくれればよい』

こういうあきらめと安心感にひたつている妻に向つて私が『こんどは対馬へ行つてみよう』と切りだしたのは何カ月とたたぬ後のことであつた。妻は驚きとともに恨みと憎悪をこめたまなざしを投げていつた。

『この苦しい中でどうしてそんな事ができるのですか、一二年なりと経つていまの家計を整理してからにしたらどう』

出漁だけはさつぱりとあきらめてほしいといいたいところを彼女としては精一杯のがまんでられだけの抵抗を示した。

『いや、苦しいからこそ早く道を切り開こうというのだ。子どもたちの将来のためにも、いまのジリ貧のくらしから脱け出なけりや駄目だ』私には妻に気がねしながらも着々対馬行の構想を固めていた。私の悪い持病が又ぞろ頭を上げてきたという

わけで、軒に火のついた思いの妻は私の気付かぬうちに弟たちを歴訪して、この頑固者が性こりもなくたくらんだ、危険な出漁計画を思いとどまらせるよう説得方をたのんだ。

しかし彼等にしても双方にいい分があり、殊に物わかりの悪い初老の姿くつ人を説いて断念させることのむつかしさを知っているだけに

『まあ極力やめるように話してみよう』くらいのお座なりの挨拶をする外なかつたようだ。

私の対馬出漁の対象はいくつかあつたが、とりあえず和歌山で苦杯をなめたさば延縄を、もう一つだめ押しにやつてみることであつた。これと集魚灯によるさばの一本釣とをあわせ行うことから取りかかろうとした。

朝鮮東海岸から大和堆にかけて北上する春さばの大群は、三四月頃支那海黄海方面から対馬暖流に乗つて回遊してきて、五月から七月にかけて西日本海一帯のひろい海域で流刺網、延縄等に好漁があつた。延縄でも一日平均千尾余り二百ヶ位の漁はらくにできた。これが対馬沖を通るのが三四月と想定し、せまい海峡を通る時魚群はかなり濃厚であると

想像したのが、まさかがらりと外れるとは思わなかつたのである。

友人K君の協力

この仕事そのものには尙一抹の不安があつたとはいへ、外にいろんな漁種についてのプランもあり又何よりも強く私を踏みきらせたものは、漁業の成算如何よりも、このせまい環境からのがれて、天空海淵の新しい漁場で、思うさま活動したいという希望と、誰も手がけぬ新漁法にたいする魅力であつた。清冽な流をもとめて廻るあゆが跳り進む前に、大石を転がす急流や越えがたい滝津瀬の横たわることの困難さが、その廻上意欲を少しもはばむものでないのと同じである。あくまで打算に長けた人間のえらぶ道ではない。ちょうどこのドンキホーテに配する格好のサンチョパンザが現れた。小学校時代のからの友だちK君である。彼も貨物船乗りながら対馬の漁場に興味をもち次第によつては対馬で一と旗上げようという野心もあつた。

昭和二十七年二月、大陸からの朔風なお冷たい海峡へ第三海光丸で乗り出した。

『やつぱり外海へ出ると、ひろびろした気分になるなあ』こういつて

K君は胸いつばばい潮風を吸込んだ。

『これがほんとの海というものさ』

二人は、少年のように眼を輝かせた。

私にとつては第二の故郷である。というよりも、たましいのふるさである日本海へ久しぶりで乗り入れた気分は、母のふところへ抱かれた幼児のように、落着きと甘美なたのしさを味はせるものであつた。

峯村の糸瀬さん

峯村に糸瀬さんをたずねてその前に船をつけた。この人は漁協長もつとめる紳士で、対馬でも有名な地主でもあり漁業家でもある。インテリであつて、しかも沖に出たらすぐれた漁夫でもある。我々を年来の知己のように歓迎してくれた。夜は卓をかこんで息子や孫たち相手のだんらんぶりも羨しいほどで、興いたれば皆でラジオに合わせて歌謡曲を合唱するという明朗闊達な好々爺であつた。この糸瀬さんとは話が合うので毎晩一時間話し合う習慣になり私が訪ねない日は必ず船へやつて来て、話しこんでゆくという風であつた。

私の出漁計画を『内海の漁村としては時宜に適したものだ』として賛同し心から援助をしようといつてくれたが、かんじんのさば漁は今から四月まで漁のない時で、いかも釣れないし悪い時季に来たものだといふ毒そうにいつた。

しかし盛漁季外れでも対馬にはさばが周年いるとのことで、毛釣り道具をつくつて、これをやり時機を待とうということになつた。二月の末頃漸く漁具もできて出漁したが、さばが三ヶから十ヶ位という薄い漁であつた。こんなことで二カ月足らずの日はまたたくうちに過ぎて、対馬の山々にはうぐいすが啼き、わらびは萌え、『春山無限好』という季節となつてきたが、家へ送金する余裕とてなく、私の心は反対に次第に厚い氷にとざされてゆく思いであつた。妻からは手紙の来るたびに家計のやりくりの苦しさをうたえてきた。

今さら後へ引けぬ

弟へのたよりにこの頃、『平家の文句ではないが、大野に火を放つた心地がする』と書き送つたことをおぼえている。

『だめならだめであるほど、尙更

あとへは引けぬ』私は自身に向つて
こう宣言した。けれども決心や希望
だけで解決できぬのは経済上の問題
である。そのうち送金するという空
手形を乱発した結果四月の末にもな
ると妻からは、

『神戸あたりへ出て、食堂の炊事
婦にでも住みこむことを考えてい
る』といつてきた。こうなると家庭
の主人としての責務を果さぬことに
おいて、もはや徒食無頼のヤカラと
えらぶところのない失格者となりお
おせたと強く自らを責めた。このう
ちにも懸命の努力を払つて出漁をつ
いけた。その頃対馬にはさばが今よ
りも多かつたので閑漁季といつても
あぐり船の多数が操業し、ダイナマ
イト船（げんこつ）も傍若無人に活
動していた。爆薬にやられたさばが
いくらかそのあたりを流れていて何
十べと拾うこともあつた。我々が恐
る恐る近ずくと、げんこつ漁師は、
『邪魔になるぞ』と一喝するかと思
いの外、

『お早うございます、釣はだめで
すか、そんならその辺で待つていま
せんか、いくらでも浮いてきたら拾
えますよ』につこりと、笑顔でこう
呼びかけてきたのは全く意外であつ
た。

紳士的な対馬の漁師

いか釣りをしようと地元の舟の間
へ割りこんで碇を入れたとき潮の流
れのため他船に接触してゆくことが
ある。淡路の海なら、

『どう盲目奴、おれの舟が見えん
か、あつちへ行け、一体おまやどこ
のがきや』他果の舟など見たら、
スワこそ敵現るといふのがこのよう
な時の態度である。

対馬では屈強の荒えびす共が乗つ
ていると見た漁船が、せまくなつた
と見るとだまつて碇を上げて別の場
所へ換つてゆく。節度と礼譲をわき
まえた上品なことばを使う紳士的な
漁師を、この辺境で見ようとは思ひ
もよらなかつた。財力が腕力をもた
ねば、いつも屈辱に甘んじて卑屈に
生きてゆかねばならぬ内海の漁村、
否本土の社会とはうつつて変つた桃源
境に入つた感じである。

さばを釣つて魚問屋へ行くと毎日
風呂がわいていて、家族より先きに
入れてくれる。

『毎度ありがとうございます、十
三べ八百二十匁で二千七百六十四円
になります』こういつて端数までち
やんと計算して持つてきてくれる。

対馬ではいか釣りが帰る時間にはど
この家でも風呂をわかつて待つてい
る。このような習慣から対馬では風
呂がごちそうということになつてい
る。それはともかく、淡路の魚仲買
人などであつたらどうだろう、

『十三べに負けとけ』こういつて
返事も聞かずにさつさと持つて行つ
てしまうのが普通で、こちらがゆず
らなければ、けんかまで行つてしま
う。農家は豊作だといつても米一合
おろそかにせぬ、漁師のとつた魚は
おかずにもろとくぞといつては、周
囲から取られ、売つた魚は端数はは
ねられる。これで貧乏しなかつたら
不思議というものだ。

対馬西浦へ回航

三ヶ月をどうにか頑張つて若葉も
芽を吹きそめた五月の初いよいよ待
望の朝鮮系のさばをめざして西海岸
の小綱へ廻航した。弟も別の観点か
ら見た対馬に関心をもち視察と私へ
の応援を兼ねてやつて来た。私は既
往の不振のうちにも対馬で何をやつ
ても、とにかく食つてゆけるとい
う確信を得たので、妻を呼びよせて
現実の状態を見せて、賛成は得られ
ぬとしても、或程度の理解と納得と
を与えておこうと考えて旅費を都合

して呼んだ。幸い小綱には家も借り
られたので延縄に必要な縄の繰り直
しにも妻の手を必要としたし二ヶ月
はここでねばつてみようと思をかた
めていた。

『対馬には電灯もないし、それに
時計の必要も感じないようだ。』
こんな話が出た。

『夜が明けたら働く、日が暮れた
ら寝る、何時であろうとそれは問題
にならんのだ。』

『冬などはそうも寝られまいよ』
『だから対馬では子どもがたくさ
ん生まれるのさ』
こういつて相手を大笑いさせたり

する妻の横顔には豪放磊落をもつて
朝鮮にまで鳴らした彼女の亡父吉谷
栄吉のおもかげをほうふつさせるも
のがあつた。

小綱の村瀬さん

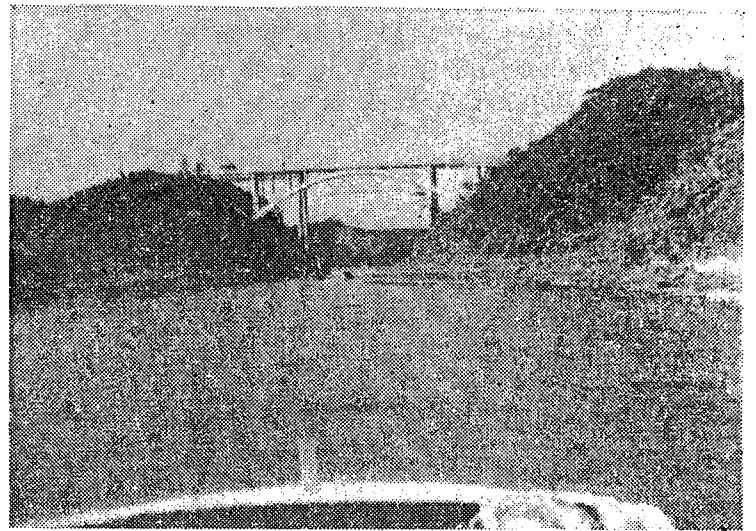
小綱には村瀬さんがいる。この人
のあぐり船で私は漁撈長をやつてい
たことがある。或年北鮮から南下す
るいわしを追うて、巨済島から対馬
近海を操業していた。一日いわしが
見えぬので夕方までさがしまわつて
いたが、朝からさんまの群が海面一
帯にとんでいるのを見ていたので、
おかずでもとろうかということにな

り群の濃厚らしいところを撰んで網を入れた。するとこのさんまは予想外に濃厚なもので約二千貫の漁があつた。このことから私の対馬出漁のうちにかつて経験のあるさんま流刺網や棒受網が重要なプランとして織りこまれていたのである。これが対馬西海岸八湊沖時季は二月中頃であつた。これは昭和十六年という古いことであるけれども今日でもさんまはこの沖に相変らずおとすれているが李ラインの關係から私も手をつけることができずにいる。

さばの餌となるキビナゴを手に入れたので、延縄に出てみた。和歌山このかた、苦勞の対象であるこの延縄には私と家族との血が通うている思いであつた。この繩にたとえ数尾のさばでもかかつてくれよと祈る気もちであつた。

ところが引いてみると一尾のさばも食つていなかった。がっかりしながら繩を引上げていると、一尾のふぐがかかつて来た。

「そら、ふぐの神ぢや」と頓狂な声ではやし立てながら、たもですくおうとすると、このふぐはふつと糸を食い切つて逃げてしまつた。しかし私はあきらめきれなかつた。兩三度の試験を経なければ結論は出ない



万関の瀬戸

と主張した。けれども二人はもともと興味もなかつたし地元の人々の悲観論にうごかされていたので、淡路での仕事の都合があるとの理由で引揚げを求めた。私はさば延縄は一たん見送るとしても東海岸でのさば集魚灯釣りをやりたかつたが、二人が逃げ腰となつてはどうにもならず、夏漁期迄に陣容を新たにしてい、出直そうと考へた。集魚灯といえは今日

の対馬では発電機をもたぬ舟はないが、その頃はまだなかつたので私の舟へ見に来る人が引きも切らぬありさまであつた。この電氣をいか釣りに利用して成績を上げたのは対馬の人で、私が彼等の後塵を拝する結果となつたのは、片腹いたい思いがする。

「食うだけできたら対馬がよい。電氣も自動車もないのは我々には注文通りだ。交通禍、騒音地獄、伝染病、その他もろもろの頽廢現象のないことはうれししい」

二人はそんなことを考えるから内地での生存競争に落伍するのだといわんばかりの顔付きで「こんな不便なところに暮せるもんか、食うだけならもちろんだ淡路がましぢや」

冷笑をうかべて異口同音にこういつた。おまえの話につられてやつて来たが、これという金もうけもないこの対馬に何の未練があるう、というのが彼等の本心である。これが常識的な考へで俗論を代表するものであるのだ。私は又あらためて孤独を感じた。

県庁への反響

この滞島四ヶ月間に、関原さん（関原英一氏—前淡路海区漁業調整委員会専門委員、現明石市立水族館長）によせた対馬だよりが、折柄県外出漁を取り上げていた県当局の関心をよび、対馬が大きくクローゾアツプされてきたようだつた。けれども私に書かせたものは、内海の人々に呼びかける性質のものではなく、それもあつたけれども、日本海と黄海とを職場として、かつて縦横に活動した頃の漁場への郷愁がさせたもので、「いよし、さば、たら、さんま、にしんといつたような古い海の友だちに又めぐり会えようかというのぞみと、そのむかしの夢の再現をはかろうとする私自身の執念がさせたわざであつた。ともあれ事業にたいする熱情とともに、安住の地をもとめて彷徨する私の魂のいこいの場所がここであるように思われたのは事実である。

帰航のついでに赤字埋めの一助にもと、薪木六百束約千二百貫を買いこんで大阪で売ろうと考へた。二人はこの小舟にかさ高い荷物を積んで海峡の荒波を越えようというのはどうかという表情であつたが、欠損の

あとへの思いやりからか別に反対もとなえなかつた。

兵庫丸との邂逅

万間海峡を出て外海へ出ようとするとき、兵庫丸が下関から渡つてきたのに、ばつたり出逢つた。

この邂逅は一つの皮肉な意義をもつたものであつた。四ヶ月間の試験操業は外見上失敗であり、これに疲

れて帰ろうとする我々とは対照的に

『有望な対馬漁場視察』という看板を

乗せて、誰彼の持ち寄つた酒まで積まれて希望と好奇心とにひとみをか

がやかせた人々が数多く乗つていた。海上接舷ではどうにもならず、

船室で、私の油にまみれた手を握り

しめて

『どうですか』と複雑な思いをこめて、切り出した。いろいろの漁種

についての意見を交換した私は『ともかく見込はある、私はやるつもりだ』ということ

土にまみれてころがつているのをい

たましげな表情で眺めていた。

人々は私の船を見おろして『奥さんも乗つていなさるが、どこで寝られますか。』

我々三人は舵と機関に取りついて何昼夜の航海をするわけだが、なるほど妻のことが気にかかるのはもつともだ。

『この薪の上で寝ますよ』

私は事もなげに答えた。

『へえ、それはまた大変なことだ』

と、さも気の毒そうにいつた。

『いや臥薪嘗胆というわけだね』

私はふとこんなことはが口を衝いて出たので我ながら苦笑した。

人々は朗かに笑つていた。言は箴を成したものが、その後の五年にわたるフロンティアに挑む戦は苦しかった。この苦しみはすでにこのとき初まつていたのだ。

私がなぜこのんでこのような表現をもちいるかといえ、対馬の人が誰もやらぬような漁種をえらんでそれに取組もうとしたことにある。

(三原郡津名町佐野出身)

一別以来御無沙汰致しており、ますます。御褒りなくお勤めのことと存じます。お便りをしようと思ひながら、何かと取まぎれて今日になつて仕舞いました。

芦カ浦だより

対馬芦カ浦にて 坂 東 勝 一

(三原郡南淡町福良出身)

貴方(森本技師をさす)が当地をたたれてから今日までに約二万円程の水揚をしました。一週間程前に発電機一キロ三万円で購入しました(中古品ですが)。

この頃のイカでは、大したスルメはできませんが、照りが続けばもうケンサキイカも灯につきまますから、しめたものです。発電機を据えれば、秋のイカがねらいです。今までの経験から、天候がよければ、二

うと想像しています。その時はタイ細もやつてみようと思ひます。対馬に来て、今年でやつと船並びに漁具がととのいました。これで思

うと想像しています。その時はタイ細もやつてみようと思ひます。対馬に来て、今年でやつと船並びに漁具がととのいました。これで思

の経験から、天候がよければ、二

け頑張つてみます。発電機さえあれ

況お知せまで。六月二十六日

暑中御見舞申上げます

兵庫県漁業協同組合連合会

会長 三浦清太郎

兵庫県信用漁業協同組合連合会

会長 島田文治郎

兵庫県内海漁業協同組合連合会

会長 三浦清太郎

但馬漁業協同組合連合会

会長 西上重式

兵庫県漁業信用基金協会

理事長 三浦清太郎

副理事長 西上重式

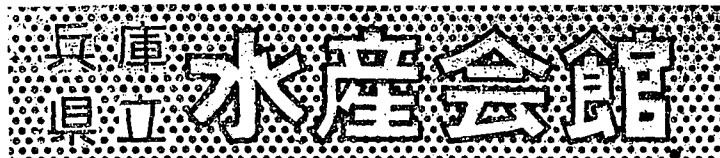
兵庫県内海漁船保険組合

組合長 三浦清太郎

但馬漁船保険組合

組合長 西上重式

神戸市兵庫区
新在家町



電⑤8301(事務)

電⑤9563(宿泊)